



先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/09/01

## 夏季休暇シーズン明け、相場変動に注意

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➡	イベント多く、レート変動も 予想レンジ: 107.000~113.500円	2-3
<a href="#">カナダ/円</a>	➡	利上げ期待と原油安の綱引き 予想レンジ: 85.100~91.000円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



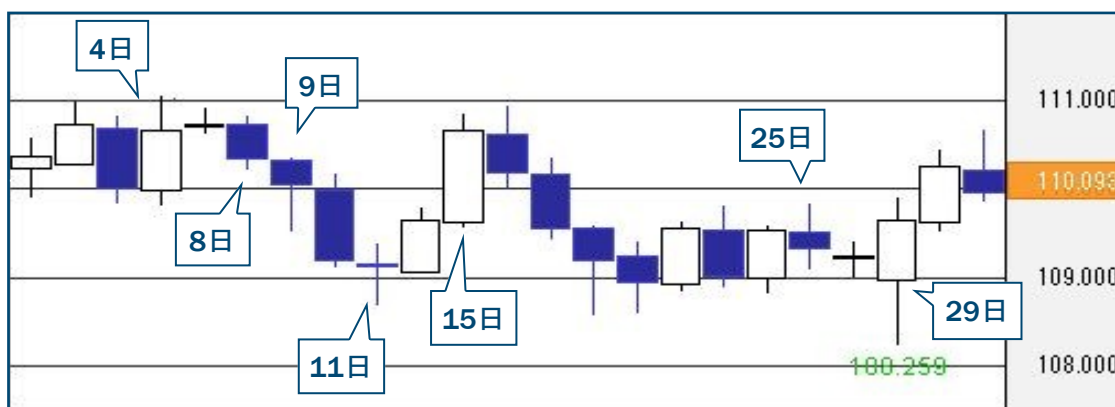
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## ドル/円 8月の推移

USD/JPY

8月のドル/円相場は108.259～111.047円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.3%の小幅な下落(ドル安・円高)となった。トランプ米政権の混乱・内紛(16日に、助言組織である製造業評議会と戦略・政策フォーラムを解散、18日にパノン首席戦略官が退任など)や、米連邦公開市場委員会(FOMC)の年内追加利上げに対する不透明感(16日のFOMC議事録で低インフレ懸念が示された)からドルの上値は重く、4日の米7月雇用統計で付けた111.047円を高値に伸び悩んだ。一方で、ミサイル発射実験などの挑発行為を繰り返す北朝鮮の暴発懸念も相まって108円台に差し込む場面も幾度もあったが、その度に反発するなど下値も堅かった。29日には4月に付けた年初来安値(108.134円)に迫ったが、北朝鮮情勢に対する過度な不安が後退した事や、トランプ米大統領による税制改革への期待が再燃した事から切り返した。



## 四本値

OPEN	110.238
HIGH	111.047
LOW	108.259
CLOSE	109.967

4日	米7月雇用統計の主な結果は、失業率4.3%、非農業部門雇用者数20.9万人増、平均時給前月比+0.3%、前年比+2.5%と、市場予想(4.3%、18.0万人増、+0.3%、+2.4%)よりも概ね良好であった。米国家経済会議(NEC)のコーン委員長が「可能な限り法人税を引き下げる」「企業が対外資産引き上げ(レパトリエーション)を行いやすいように税制改革を」などと発言した事もあって、一時111円台を回復する場面もあった。
8日	トランプ米大統領は、北朝鮮が米国をこれ以上脅かせば「世界がこれまで目にしたことのないような炎と猛威に直面する事になる」と述べて、同国の挑発をけん制した。この発言を受けてNYダウ平均が下落するなど、リスク回避の動きが強まると円買いが優勢となった。なお、これに先立ち一部米紙が「北朝鮮はミサイルに搭載可能な小型核弾頭を開発」と報じた。
9日	北朝鮮が「(米軍基地のある)グアムへのミサイル攻撃を『慎重に検討』している」と発表。米朝間の緊張が高まる中、地政学リスクが意識されて円買いが活発化した。
11日	米7月消費者物価指数は前月比+0.1%、前年比+1.7%となり、前月(±0.0%、+1.6%)から伸びが加速したものの、市場予想(+0.2%、+1.8%)には届かなかった。また、コア指数は前年比+1.7%と前月から横ばいで予想通りの伸びであった。これを受けてドル売りが強まると、ストップスを巻き込んで4カ月ぶりの安値となる108.70円前後まで下落したが、直後にロシアのラブロフ外相が「北朝鮮を巡る緊張の緩和に向けてロシアと中国による共同計画がある」と述べた事が伝わると、一転して109.400円前後へと急反発するなど乱高下した。
15日	北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長が「米国の行動をもう少し見守る」と述べて、すぐには発射に踏み切らない考えを示した事を受けてリスク回避ムードが緩和すると円売りが優勢となった。その後、米7月小売売上高が前月比+0.6%と2016年12月以来の高い伸びとなり、市場予想(+0.3%)を大きく上回った。さらに6月分が大幅に上方修正(-0.2%から+0.3%へ)された事もあってドル買いが活発化。なお、自動車を除いた売上高も前月比+0.5%と、市場予想(+0.3%)を上回った。
25日	イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長は、米ワイオミング州ジャクソンホールで行われた経済シンポジウムにて「金融規制のいかなる調整も控えめであるべき」「行き過ぎた楽観論のリスクは遅かれ早かれ返ってくる」などと発言したが、金融政策には言及しなかった。12月の利上げはおろか9月のバランスシート縮小にも触れなかった事に市場が失望。米長期金利が低下し、ドル安が進行した。
29日	早朝に北朝鮮が弾道ミサイルを発射。前回の26日から間を置かずに発射した事や、日本の上空を通過して襟裳岬沖に着水した事から、有事を懸念してリスク回避の円買いが活発化すると108.259円まで下値を切り下げた。しかし、米8月消費者信頼感指数が122.9と市場予想(120.7)を上回り5カ月ぶりの高水準を記録した事や、これを受けてNYダウ平均がプラス圏に持ち直した事からドル/円も109円台後半へ切り返した。

## USD/JPY

## 米2年債利回

OPEN	1.3511%
HIGH	1.3669%
LOW	1.2839%
CLOSE	1.3255%

## 米10年債利回

OPEN	2.2996%
HIGH	2.3192%
LOW	2.0841%
CLOSE	2.1170%

## 日経平均

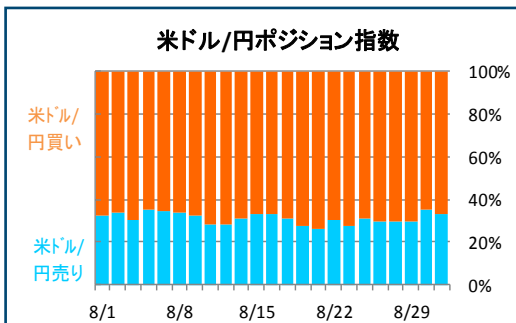
OPEN	19907.08
HIGH	20113.73
LOW	19280.02
CLOSE	19646.24

## NYダウ平均

OPEN	21961.42
HIGH	22179.11
LOW	21600.34
CLOSE	21948.10

## 8月のポジション動向

## 9月の日・米注目イベント



- ・8月米雇用統計(1日)
- ・8月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・7月米貿易収支(6日)
- ・8月米ISM非製造業景況指数(6日)
- ・米ページブック(6日)
- ・7月日本経常収支/貿易収支(8日)
- ・4-6月期日本GDP・二次速報(8日)
- ・8月米生産者物価指数(13日)
- ・8月米消費者物価指数(14日)
- ・8月米小売売上高(15日)
- ・8月米鉱工業生産(15日)
- ・8月米住宅着工件数(19日)
- ・米FOMC(19-20日)
- ・8月日本貿易収支(20日)
- ・日銀金融政策決定会合(20-21日)
- ・9月米消費者信頼感指数(26日)
- ・8月米耐久財受注(27日)
- ・4-6月期米GDP・確報値(28日)
- ・8月日本消費者物価指数(29日)

## 9月の見通し

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

8月のドル/円相場は、3円未満の値幅に留まる小動きであったが、9月相場は注目イベントが多く、レート変動も大きくなりそうだ。19-20日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、バランスシートの縮小が始まる公算が大きい。追加利上げは見送る公算だが、12月の利上げ再開を巡って経済見通し(特にインフレ見通し)や金利見通し(いわゆるドットチャート)が焦点となろう。なお、8月31日終了時点での12月利上げ確率(米短期金利市場や米金利デリバティブ市場の織り込み度合い)は30-35%前後であり、市場には利上げを織り込む余地も、見送りを織り込む余地も残っている。

また、9月5日に夏季休暇明けで再開する米議会の動向も注目されよう。債務上限引き上げの期限が9月末に迫っており、引上げに合意できなければ、10月からの新年度予算が組めずに、政府機関の一部閉鎖が行われる可能性も出てくる。政府機関の閉鎖は過去に18回も行われており、閉鎖が長期化しない限り米経済への影響は小さい事もわかってはいるが、2011年には米国債の格下げという想定外の事態に発展したケースもある。今回の債務上限引き上げ問題は、市場が期待するトランプ減税とも絡んでくると見られるだけに、市場心理への影響という点では無視できない材料であり、ドルレートにも影響が出る公算が大きい。

その他、9月9日は北朝鮮の建国記念日に当たり、核実験等の挑発行為に出るとの観測がある。また、12日から25日には国連総会が開催される。ドル/円相場が北朝鮮問題に揺さぶられる場面は9月にも見られそうだ。(神田)

(予想レンジ: 107.000-113.500)

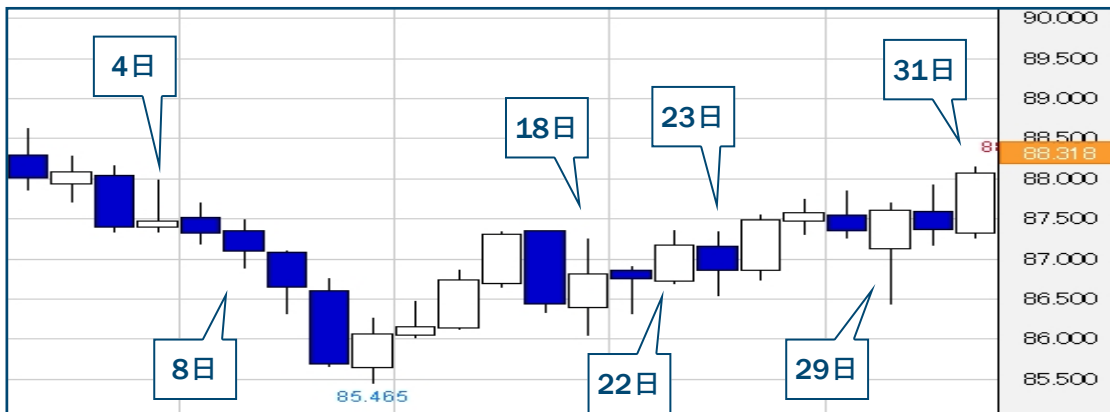


## カナダ/円 8月の推移

# CAD/JPY

8月のカナダ/円相場は85.465～88.633円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.3%の小幅下落(カナダドル安・円高)となった。

石油輸出国機構(OPEC)と非加盟の主要産油国が開いた専門家会合で需給改善期待が後退する中、NY原油先物が軟調に推移した事が、カナダドルの重しとなった。また、北朝鮮情勢の緊迫化によりリスク回避ムードが強まった事もあり、11日に85.40円台まで下落。売り一巡後はやや値を戻すも、トランプ米大統領が北米自由貿易協定(NAFTA)撤廃に言及した事などが上値を抑えた。



### 四本値

OPEN	88.300
HIGH	88.633
LOW	85.465
CLOSE	88.083

4日	加7月雇用統計は、失業率6.3%、就業者数は1.09万人(予想:6.5%、1.25万人増)であった。また、労働参加率は65.7%と前月(65.9%)から低下した。また、加6月貿易収支は36.0億加ドルの赤字(同:12.5億加ドルの赤字)であった。
8日	OPECと非加盟の主要産油国が8日までに開いた専門家会合で、1月から実施中の協調減産の順守を確認した。ただ、減産強化についての踏み込みがないなど、新味に乏しい内容であった。
18日	加7月消費者物価指数は、前年比が事前予想通り+1.2%と6月(+1.0%)から伸びが加速。その後、イスラム圏数カ国からの入国制限など、議論を巻き起こしたトランプ米大統領の政策の立案に関わったとされる、スティーブ・バノン米首席戦略官・大統領上級顧問が退任するとの憶測が広がると、米国株が下げ幅を縮小した事も追い風となり、カナダ/円は87.20円台まで上昇した。
22日	加6月小売売上高は、前月比+0.1%と予想(+0.2%)をわずかに下回るも、自動車を除いた売上高が前月比+0.7%と予想(+0.1%)を大きく上回った。これを受け、カナダ/円は一時87.30円台まで上昇した。
23日	トランプ米大統領が「我々が合意に達することができるとは思わない。そのため私は、ある時点で我々はNAFTAを撤廃することになると考えている」などと述べた事が伝わると、カナダドル売りが優勢となった。
29日	早朝に北朝鮮が発射したミサイルが日本の上空を通過して太平洋上に着水した事が伝わると、リスク回避の動きから円買いが活発化。しかし、小安く始まったNYダウ平均が反発した事や、米国防総省が「北朝鮮のミサイルは北米とグアムの安全を脅かさない」との見解を示した事でリスク回避ムードが緩んだ事から、反発した。
31日	加4-6月期国内総生産(GDP)が前期比年率+4.5%(予想:+3.7%)と、2011年7-9月期以来の高い伸びとなった。また、6月GDPも前月比+0.3%と予想(+0.1%)を上回った。これらを受け、カナダドル買いが強まった。

# CAD/JPY

## 加10年債利回り

OPEN	2.043%
HIGH	2.059%
LOW	1.806%
CLOSE	1.849%

## N Y 原 油

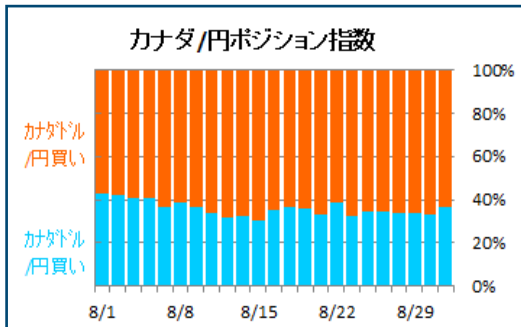
OPEN	50.21
HIGH	50.43
LOW	45.58
CLOSE	47.23

## NYダウ平均

OPEN	21961.42
HIGH	22179.11
LOW	21600.34
CLOSE	21948.10

## 8月のポジション動向

## 9月のカナダの注目イベント



- ・NAFTA再交渉(1~5日)
- ・7月加貿易収支(6日)
- ・BOC政策金利発表(6日)
- ・8月加Ivey購買部景況指数(7日)
- ・8月加雇用統計(8日)
- ・8月加住宅着工件数(11日)
- ・7月加新築住宅価格指数(14日)
- ・7月加小売売上高(22日)
- ・8月加消費者物価指数(22日)
- ・7月加GDP(29日)

## 9月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

好調なカナダ経済を背景に年内の追加利上げが期待される中、6日の加中銀(BOC)理事会に注目したい。前回7月理事会から間もない上、BOC要人から利上げに向けた地ならし発言が見られなかった事などから、市場関係者の間では、今回は利上げを見送り、10月理事会での追加利上げが本命視されている。そうした中、声明で10月理事会での利上げに向けた地ならしがあれば、追加利上げ期待が高まってカナダドルが買われる可能性がある。

ただ、原油相場が下げ止まらない点にも注意したい。NY原油先物は8月31日に45.58ドルまで下落して、6月安値-8月高値の61.8%押し(45.25ドル)に迫った。その後47ドル台に戻したが1日に付けた8月高値(50.43ドル)に届かないなど上値が重い。前述の61.8%押し水準を割ると7月安値(43.65ドル)まで下値余地が拡大することから、カナダドル相場に下押し圧力が掛かる可能性がある。相場が反発するためには、減産強化などによる需給改善に向けた動きが必要だろう。その他、不透明なNAFTA再交渉の行方も、カナダドル相場に影響を落とすと見る。(川畑)

(予想レンジ: 85.100~91.000円)